

一般に白血病とは、炎症を止めようとして増殖し、乳酸体質「血液のがん」として扱われています。しかの影響から寿命の尽きし、どこにも「がん細胞」は存在していません。

白血病が「血液のがん」と認識されているのは、白血球細胞と数倍から数十倍にも増殖し、健全な細胞を攻撃することによりです。対症療法では、抗がん剤などを処方して細胞の減少に努めます。ところが、数が減少しても、原因は改善されないで、再発を繰り返す可能性がありま



こうした状態にある白血球細胞は、通常疲労した程度でも見られません。従って、「血液のがん」というよりは「疲労細胞」と呼ぶべきです。

細胞が増殖する背景には、必ずどこかに炎症があるものです。白血球は、交感神経の過剰反応という状態の中



術前（右）。左側にある白い楕円形のものが白血病細胞と呼ばれている細胞。周辺の星型のは酸化して変形した赤血球。左は術前。動きのなかった白血球は、ほとんど元気に動きだした

素や多種類のミネラルを摂取し、光線療法によって硬直した筋群を和らげて副交感神経を

# 自然治癒を科学する

自然医学総合研究所 大沼 四郎

## がんの盲点③

「がん」という根拠はそこにあるのです。実際に白血球に罹患している人の白血球細胞で「NRT自然免疫活性化療法」と呼んでいます。も、食べ物を変えることや、骨盤の歪みを改善することなどの些細な環境の変化によって、健全な白血球に戻ります。復できることが「血液画像分析器」で確認できます。

そこに、良質の葉緑素や多種類の微量元素（ミネラル）の摂取・吸収を高めるために、腹部と腰や足低部にカーボン灯で十分から十五分間照射・消化と吸収を高めるために、右側のそけい部にレーザー光線を十分から二十分程照射を施し、その後ストレスによって

六カ月ほど持続することで、炎症細胞が消失します。その上、自律神経が回復し、白血球の数も自然に安定することが確認できます。また、血液の成分は、ほとんどが水分であり、その水分を浄化しよつとする発想も必要です。有機の野菜などを発酵させてつくる酵

問い合わせ  
電話 052・801・7063  
Eメール shiro@nrt.ne.jp  
URL http://www.nrt.ne.jp

写真が昨年十月に白血球が三十五万にも増殖し、三重大学で骨髄移植が必要と診断された十三歳の男子の血液画像です。写真右は術前、左が術後です。この状況の変化は、白血病細胞と呼ばれている病的細胞の存在がなくなった事を意味するものです。また、白血球が元気になること、がん特有の自己免疫疾患は改善され、免

化学博士・平成11年度に掲載します）  
（毎月、第一火曜日）

社会文化功労賞受賞・ナチュラルケアセンター（院長）

講演会のお知らせ  
講師：大沼四郎 自然医学総合研究所所長 ナチュラルケアセンター院長 平成11年度社会文化功労賞受賞 名誉医学博士・生化学博士  
開催日：4月23日（日）名古屋 市東区ウィルあいち2F特別会議室 入場無料  
テーマ：がんの盲点（4）と予防医療について  
時間：午後1時開場 1時30分開演 4時30分終演  
主催：民間非営利団体 国際自然免疫学会  
共済：自然医学総合研究所  
申し込み：自然医学総合研究所 TEL 052・801・7063まで  
特典：先着50名様に血液さらさら体験無料券を贈呈！